

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月22日 更新

事務事業名		御代志市民センター講堂維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也
	施策	21	生涯学習の推進			所属課	生涯学習課	担当者名	奈須 昌美
	基本事業	69	生涯学習施設(環境)の整備			所属班	生涯学習班	(内線)	2522
予算科目		会計一般	款10	項5	目6	事業連番10829	法令根拠	合志市民センター条例 成果優先度評価結果 : ⑨ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		☒ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	御代志市民センター講堂の維持管理事業昭和62年3月に御代志市民センターが開館し、施設の維持管理が必要となった。築後20年を経過しているため、各所に傷みを生じており、音響・電動イス・舞台照明、舞台幕、吊物改修等が必要となっている。
【業務の流れ】	御代志市民センター講堂の照明・音響・吊物・電動イスの保守点検を行う
【主な予算費目】	需用費(修繕費)、委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	施設設備が設置後20年以上が経過し、経年劣化が目立ってきている。舞台幕がひどく劣化しているため、取替えて欲しい。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) 電動椅子電子制御部改修工事、電動イス保守点検、音響保守点検、照明保守点検、吊物保守点検、照明消耗品の購入、照明卓改修工事		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ア:御代志市民センター講堂維持管理事業にかかる経費	円	10827御代志市民センター維持管理事業へ統合による減	
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
御代志市民センター講堂		→ア:施設面積	m ²
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
施設を快適に利用できる		→ア:施設維持管理上の不具合・トラブル件数	件
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠 施設管理上の不具合が少なければ、それだけ環境が整備された施設を提供できたことにつながるから			総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
①活動指標	ア	円	2,867,550	807,450	5,920,000	5,617,591	0	0	0	0
②対象指標	ア	m ²	720	720	720	720	0	0	0	0
③成果指標	ア	件	1	0	1	1	0	0	0	0
投資 入 費 量	事業 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	2,868	807	5,920	5,618	1,000	1,000	
	(A)事業費計	(A)事業費計	千円	2,868	807	5,920	5,618	0	1,000	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(B)人件費計	千円	206	605	1,211	447	1,211	1,211	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	3,074	1,412	7,131	6,065	1,211	2,211	0

事務事業名	御代志市民センター講堂維持管理事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	-------------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 計画的に補修しているから ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 音響設備、照明設備が経年劣化により使用上の制限があるため、改修を行えば、向上する。 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 総合センターウィーブルの「文化会館維持管理事業」と類似しているの、講堂の機能を総合センター文化会館に集約することが出来る。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 文化会館維持管理事業に統合出来れば、今後の設備改修費や設備保守点検委託料、講堂管理委託料が全て削減できる。 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 文化会館維持管理事業に統合出来れば、人件費の削減につながる。 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 設利用の市民には、受益者負担の原則に従い、施設の維持管理の一端を担っていただくため、施設利用料及び冷暖房使用料の負担をいただいております、利用者による適正な施設の維持管理に貢献している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 御代志市民センター講堂は、市有施設なので住民への移行はできない

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

照明・音響・吊物・電動イスの設備設置後20年以上経過し、経年劣化により設備の総入れ替えが必要な時期にきているが、これらを全て入れ替えとなると巨額な費用が必要となる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☒ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

市民センター維持管理事業に統合

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策